


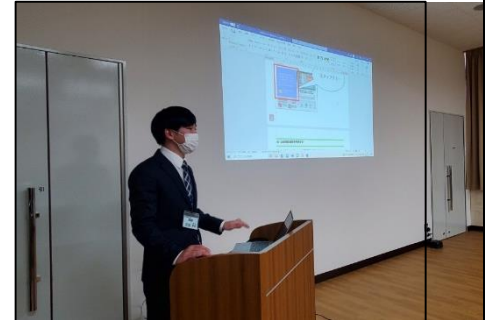
成果報告書

1 大学等名	広島経済大学	
2 教育研究活動	区分	②ICT 環境の整備・有効活用について
	テーマ	コロナ禍での交流機会の促進ー学生による高齢者向けスマホ講座ー
3 連携した市町	五月が丘公民館（広島市佐伯区）、府中公民館（安芸郡府中町）	
4 連携した企業、団体等	講師（森方真由美：スマホインストラクター）	
5 参加学生	経営学部経営学科:3 回生（9 名）、2 回生（4 名）	
6 活動の内容	<p>【2022 年】</p> <p>7 月 12 日：推進計画打合せ 7 月 19 日、7 月 26 日：進捗会議 7 月 27 日：企業（ドコモショップ）との進め方打合せ 8 月 4 日：五月が丘公民館との進め方打合せ 8 月 11 日：進捗会議 9 月 1 日：講師との事前打合せ 9 月 15 日：学内中間報告会 10 月 13 日：スマホ講座 講習会開催・利用実態調査（五月が丘公民館）</p>   <p>・LINE の基礎機能を 2 時間、講義形式で行った →講師役（1 人）、サポート役（高齢者 2 人につき 1 人）を務めた</p> <p>10 月 27 日、11 月 3 日、11 月 10 日：進捗会議 11 月 12 日：スマホ講座 個別指導開催（五月が丘公民館）</p>  <p>11 月 17 日、11 月 24 日、12 月 1 日：進捗会議 12 月 6 日：府中公民館との進め方打合せ 12 月 8 日、12 月 15 日：進捗会議</p>	

【2023年】

1月12日、1月19日、2月2日：進捗会議

2月9日：スマホ講座 講習会開催・利用実態調査（府中公民館）



2月9日：利用実態調査を踏まえた今後の活動課題について打合せ

2月10日：広島広域都市圏協議会での報告会



7 活動効果

本活動は、高齢者の交流機会の現状把握と課題を調査するとともに、学生自らが高齢者へのスマホ講座を開催し、交流機会の促進に向けた活動を行うものである。

<感じたこと>

- ・高齢者と若者の交流機会が少ないことが分かった。
- ・高齢者はLINEの基礎もあまり分かっていなかった。
- ・若者と高齢者とのデジタル格差を実感した。
- ・講座に対するニーズが高いことが分かった。

<活動の成果>

・広報誌への掲載など効果的な広報活動を行った結果、予約が5分以内に埋まった。

・講座資料や講義形式について、講師や公民館との意見を参考に練り上げた結果、また開催してほしいという好評の声が多くあった。

・講座を受講してもらい、少しでも使えるようになっていた。

・スマホを通じ、高齢者と学生のコミュニケーションを図ることにより、学生との会話も楽しかったといった意見も多く頂いた。

・講座資料作成にあたっては、何度もテキストを練り直し作成することにより、学生自らの説明能力の向上を図ることができた。

・学生の学びとして、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の向上、高齢者との交流の機会を得ることができた。

・高齢者の交流機会の現状把握と課題を調査した結果、約4割の高齢者が周囲にスマホなどを教えてくれる人がおらず、若者とシニアとの間における情報格差を感じているとの回答が10割であったことから、特に若い世代との交流機会が少ない様子が明らかとなった。

・アンケートの結果からもデジタル格差の課題が明らかとなり、地域が抱えるデジタルデバイドの課題など、実体験を通じて課題認識のきっかけづくりを行う事ができた。

・今回のスマホ講座などの開催を通じ、高齢者間および若者と高齢者間のつながりを強化するためのきっかけづくりとしても有効であったことから、今後における高齢者が人とつながり続けることができる施策として、単にスマホ講座を開くことだけを目的とするのではなく、若い世代を活用した講座づくりを行う事により地域が一体となって活動することが重要であり、こうした活動を定期的に継続して進める施策が必要である。また、ヒアリング時にも再度開催して欲しいといった声やキャッシュレスへのニーズの声もあることから、新たな講座の展開に向けた提案を行いたい。

<得た課題>

・キャッシュレス決済講座など求める声はあったが、実際にキャッシュレス決済の実体験を行って頂くには、クレジットカード・交通系・QR決済など媒体が多岐にわたり決済端末の設置など環境整備の問題も多いことから、利用体験を交えた講座を実現するには難しいことが分かった。一方で、キャッシュレスへの関心度は高く、まずは利用にあたっての説明会を座学形式で実施することなどの検討を行っていききたい。

・高齢者の近くにスマートフォンの使い方を教えてくれる人は少ない。

・高齢者は思った以上にスマートフォンを使えてない。

・教える側が少人数であるほど、教えることが難しい(講義形式に沿って進める場合、講義内容が理解できていない高齢者の把握が困難であるとともに、隣席の方々が互いに教え合うなど講義に集中できなくなるなど講義形式の課題もあった)。